

まんさく

第312号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
題字 元理事長 太田 祖 電



ひなたぼっこに駐在さんがやってきた♪

～令和7年4月20日～

ひなたぼっこに太田の駐在さんと川尻の駐在さんがいらっしゃいました。警察の方…というとなぜかドキドキしますが、お話と歌をご披露頂き、その緊張もほぐされていきました…とき♪

312号『まんさく』もくじ

☆2頁★

*令和6年度下半期～
「ひやりはっと」まとめ

☆3頁★

*災害を捉える

☆4頁★

*地域密着型事業紹介
*寄贈・面会・外泊等

☆5頁★

*「今生より往く」
*令和7年度家族会総会開催

☆6頁★

*「光寿会の日々」(4コマ漫画)
*「自然法爾」(お寺さんのお話)

*「おわりに」

光寿会では、『事務系・介護系・調理系等』の職員を募集中です♪

【ひやりはっと及び事故まとめ】(令和6年度下半期)

合計 『151件』
前年下半期比 『44件減』

場所	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居室	23	15	21	13	13	17	102
廊下	3	1				6	10
浴室		1	2	3	2	1	9
湯の町茶の間	2	2	2		1	2	9
トイレ	1	1	2	2	1	1	8
介護室	1			1		1	3
大通り居所				1	2		3
ホール	1		1				2
せせらぎ	1					1	2
エレベーター						1	1
医務室・静						1	1
ベッド	1						1
合計	33	20	28	20	19	31	151

事故内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外傷	15	9	13	7	9	8	61
転倒・転落	12	4	8	7	5	9	45
与薬	3	4	3	1	2	9	22
紛失・破損	1		2	1		2	6
熱傷				2	1	1	4
経管栄養		3	1				4
誤嚥・誤飲	2					1	3
管理ミス			1	2			3
異食					2		2
見守りエラ						1	1
合計	33	20	28	20	19	31	151

※2件の介護事故を赤色で表記

所見	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内出血	12	6	5	4	5	7	39
表皮剥離	2	1	2	2(1)		2	9
切り傷	1	1	2		2	1	7
擦り傷	1		2	1	1		5
打撲		1		1	1		3
窒息	1					1	2
爪外傷	1			1			2
裂傷		1	1				2
骨折				1			1
熱傷					1		1
無し	15	10	16	10	9	20	80
合計	33	20	28	20	19	31	151

事故発生時間帯	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
06:00 ~ 08:00	4	3	2	2		1	12
08:00 ~ 12:00	8	8	9	1	3	13	42
12:00 ~ 18:00	11	6	11	13	15	11	67
18:00 ~ 22:00	4	2	3	3		3	15
22:00 ~ 06:00	6	1	3	1	1	3	15
合計	33	20	28	20	19	31	151

要介護度別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護Ⅱ			1			1	2
要介護Ⅲ	10	4	6	7	2	16	45
要介護Ⅳ	12	14	9	5	12	9	61
要介護Ⅴ	11	2	12	8	5	4	42
その他						1	1
合計	33	20	28	20	19	31	151

令和6年度下半期のひやりはっと発生件数は、前年度の同期比で-44件と大幅に減少し、過去3年間と比較しても15%以上減少していた。また年間の発生件数で比較した場合も前年度比-68件となっており、過去3年間との比較で18%以上の減少が見られた。一方で骨折を含む介護事故も2件発生したことから、再発防止策への徹底が求められる。

総数の減少に伴い各内訳の数字も減少していたが、変化が見られた点として以下の3つが挙げられる。①「管理ミス」の持続的な減少。下半期も少ない数値を維持した事で、年間を通して14件の減少となった。見守りセンサーのスイッチを入れ忘れる、等の簡易ミスが減少した結果も大きい。②前年度ゼロだった「熱傷」が5件に増加。5件の内には未遂も含まれるが、特に体温を保つための保温材の使用には留意を要する。③「表皮剥離」。下半期は幾分発生を抑制できたが、年間を通せば7件の増加となった。引き続き個々の状態に応じたスキンケア対策が求められる。

想...

災害を捉える 石川県七尾市から発信⑤

『能登から被災地だより⑤』竹原了珠氏



今回も能登半島地震を経験して向き合い続ける竹原さんに筆をとって頂きます。被災地におけるトイレの問題、に焦点をあてた、大切な内容です。

被災地の支援活動として、トイレ掃除がともなわれ、海外から来た旅行客が日本、てすごい、と評価されることの一つが、トイレの美しさをウオッシュレットなどの機能のすばらしさです。災害で水道や電気が使えなくなると、そんな日本らしさは消えてしまいます。鼻をつくようなにおい、足元に飛び散った糞尿、不衛生であることと汚れること、恐怖しくて、用をたすことがためらわれます。こんな状況で、地震発生して間もなく訪れたのです。ある地域では、トイレ掃除をこまめにしていくれた京教団体に対して、現地の方は大変感謝しておられました。

でも、これは人が多く住む町の場合で、避難所に数百人が住んでいると、ひどい環境になります。私は2カ月間、水道のない所に居ましたが、まさに「ぽん」と一軒家。毎日、穴を掘ってそこに「う●こ」をして、土をかぶせます。昨日はここだったから、今日はここに穴を掘ろう。最初

は穴にうまく照準が合わせられませんでした。その内、とても上手にチツポイン♪おさまり良くて、きれいなことのように思います。上手にいった時は、とても自分が誇らしく思いました。どこでも生きていける！みたいな自信。大袈裟ですが、色んなものが壊れたから、これ、これで大丈夫。ということが見つかって、嬉しかった。あるのです。子どもが初めてトイレで用を足して周りが褒められた感じ？子猫が初めて砂のトイレで用をたすことができた時の飼主の歓喜？そんな感じ。あと、う●こって大きいんだな！って言うのが新鮮な驚きでした。和式トイレとお付き合いなくなつてもう何年。洋式トイレだと、水をためている穴に吸い込まれるように収まるのでカワイイサイズにし、おしやしません。だから私は長い長い間、お上品なサイズなんだと勘違いしておりました。ところが地震以降、露骨に横たわる物体を前に、う●こ、いったいこれは何なんだ。という現実を毎日の

ただいとおりました。汚らしい話に、読んでくださっている皆様もうんざりしているかも知れませんが、そうお感じになるのも、文明の中に生きていくから当然だと思っております。文明というのは、人間の汚らしさを見せないように、感じさせないように発展してきたものと言えます。スーパーに行くとき、泥がついた野菜はゴボウくらいですし、キレイなピンク色をしたお肉が並んでいるのも、これも文明なのです。肥料のついた泥や、動物の糞は、文明社会の中では切り離されて見えないようにされているのです。

この文明が消えた時、生きることをから切り離したり、取り除いたりできない汚らしさと直面し、どのように付き合っていくのか、問われるということを経験していただきました。

次号へ続く...

今月の登録者の方々
14名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

雨の日も多い春ですが桜満開…「ひなたぼっこの日常」



【上段右】
*通いサービスのお食事風景

【上段左】
*お茶会「金太郎壁掛け作り」

【下段】
*西和賀町内駐在さんによる
友愛訪問

おかげさまでした

寄贈

- ★ 匿名希望 様 [湯田]
- ☆ 梨子下 深雪 様 [上野々]
- ☆ 石川 アチ 様 [上野々]
- ☆ 羽柴 直志 様 [川尻]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下前]
- ☆ 山本 ミヤ 様 [湯川]
- ☆ 阿部 均 様 [湯本]
- ☆ 小田島 智 様 [盛岡市]
- ☆ 高橋 智也 様 [埼玉県]

来所

- 【4月20日 お話とギターと歌】
- ★ 西和賀町内駐在 様 … 2名

面会 外泊

〔4月1日〜30日〕

- 【対面面会】
- ★ 延べ116名(対象入居者28名)
- ☆ 延べ16名(対象入居者4名)
- 【自宅外出・外泊】
- ★ 2名 [外出]
- ☆ 1名 [外泊…5回]



★光寿苑 ☆ひなたぼっこ、湖畔の宿
光寿会へのご支援



母の心は子孫の心へと継承されていく
高橋セツさん【95歳】



『今生より往く』

普段、口数は少なくなってきたものの、ご家族の話
題などを出すといつも以上に頷いたり、アイコンタクトで
反応して下さいました。その眼ざしがとても温かく、や
さしいものでした。本当に癒されてきた時間でした。
最後までご家族に見守られて、温かくなりました。
《担当：高橋太樹、熊澤俊子》

令和7年度 家族会総会開催

【4月19日(土) 14時30分～】

家族会入居者家族14名、任意加入会員9名出席を頂きました。
規約の一部改定により、副会長3名体制と致しました。ここに
ご報告致します。総会后、ご出席のご家族にサプライズ特典と
してお年寄りと面会頂き、大変喜ばれていました(^^)



- 【会 長】
佐々木 一 様 (再)
- 【副 会 長】
池田テル 様 (再)
佐々木 忠雄 様 (再)
高橋 毅 様 (昇)
- 【事務局長】
藤原輝夫 様 (再)
- 【監 事】
高橋 信男 様 (再)
小森 一彦 様 (再)
- 【地域役員】
高橋 保友 様 (再)
中川 伸一 様 (再)
高鷹 昇 様 (再)
佐藤 莊子 様 (再)
高橋 正一 様 (新)

312号 光寿苑の日々



イラスト：1000

入院先のS病院でのMとコマ。ツケ=商品やサービスを売り、売上は発生しているが、後日、代金の支払いで可とするシステム。しかしながら、99才にしてこの機転が利くというか、周りを幸せな気持ちにしてしまうMさんのお人柄も尊い。

一人あり。

その世に生きるるや、無等

古い経典より

第11回 丸田善明

自然法爾 [じねんほうに]

釋尊のお誕生について書かれた古いお経の言葉です。「無等」とは「唯一無二の人」ということ。

今年4月、久しぶりに花御堂を設えて、「誕生仏」を飾り、親鸞聖人のご今日にお参りした人たちに、「甘茶」を注いで頂きました。

釋尊が誕生した時、天と地を指さして、「私は世において、無上尊」となりとう。と宣言されたと言います。すると、天上の神々が甘露の雨を降り注ぎ、産湯とされた。誕生仏に甘茶を注ぐのは、このことに由来しているのです。

冒頭の言葉は釋尊のことを語っているようですが、その真意は、人は誰しも「独り尊し」と呱呱の声を挙げて生まれてくる。「仏の子(独尊子)」として誕生するのだという教訓なのです。

私が住職したお寺では、長女が小学生だった頃まで日曜学校が繞っていました。子どもたちの減少で休止してから花祭りも遠のいてしまいい、50年近く経ちます。大切なことを忘れてしまったって住職だったことを慚愧しながら、久々の花祭り。今年も連休明けまで、お参りの方々に親しんで頂くと思っています。この後、繞くように...

おわりに

毎月、何十年も続けていると、「ここ」に書く事が何も浮かんでこない時が度々ある。今がその時。明日の午前が切だと言うのに、すでに前夜を迎えてしまった。これまで3ノ1ノ回も「ここ」に書き繞ってきたので、「同じ事は書けないし...」という思いはある。でも、例えば、20年前に書いた内容も、今の感性で書いてみたらどうなるのか。若き日の考えを掘り下げるのもいいのかもしれない。しかし、それもできない今の私。竹原さんの記事(3頁)に触れながら一つ気がいた。「汚らしさを見せないと文明人は、つまり私自身の事なんだと。良い事を言おうとし続ける私を文明の中に観る。」

※今回の表現も隠れ蓑としているのか...